

1 旅行業法及びこれに基づく命令

以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 次の記述から、「旅行業法の目的」として定められているものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業務に関する取引の公正の維持
- b. 旅行者等の利便の増進
- c. 旅行業等を営む者の組織する団体の適正な活動の促進
- d. 経済の安定的な発展と国民生活の向上

ア. a, b イ. a, c ウ. b, d エ. c, d

(2) 次の行為を報酬を得て事業として行う場合に、「旅行業の登録」を受けなければならないものはどれか。

- ア. プレイガイドが、イベント会社のため、そのイベント入場券の販売について、代理して契約を締結する行為
- イ. ホテル事業者が、航空会社のため、その航空券の販売について、代理して契約を締結する行為
- ウ. 査証の取得代行を業としている者が、旅行者等の依頼を受けて旅行者の査証取得のための手続を代行する行為
- エ. 市の観光協会が、旅行者の依頼を受けて市内のホテル等の宿泊サービスの提供を受けることについて、代理して契約を締結する行為

(3) 「旅行業等の登録」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 総合旅行業務取扱管理者を選任して第2種旅行業の新規登録の申請をしようとする者は、主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に新規登録申請書を提出しなければならない。
- b. 旅行者等が更新登録の申請を行った場合で、有効期間満了の日までに登録行政庁から更新登録をした旨又は更新登録を拒否する旨の通知がないとき、旅行者等は、当該通知があるまでの間、旅行者と旅行業務について契約を締結してはならない。
- c. 旅行者等代理業の新規登録の申請をしようとする者は、所属旅行者等の主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に新規登録申請書を提出しなければならない。
- d. 旅行業の更新登録の申請をしようとする者は、有効期間の満了の日の2月前までに登録行政庁に更新登録申請書を提出しなければならない。

ア. a, b イ. a, d ウ. b, c エ. c, d

(4) 「登録業務範囲」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第1種旅行業者は、本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。本問において以下同じ。）を実施することはできるが、本邦内の企画旅行を実施することはできない。
- イ. 第2種旅行業者は、本邦外の企画旅行を実施することはできない。
- ウ. 第3種旅行業者は、本邦外への旅行者の案内、旅券の受給のための行政庁等に対する手続の代行その他旅行者の便宜となるサービスの提供をすることはできない。
- エ. 第3種旅行業者は、本邦外の旅行に関する相談に応ずることはできない。

(5) 次の記述のうち、旅行業等の登録の拒否事由として定められていないものはどれか。

- ア. 営業に関し成年者と同一の行為能力を有しない未成年者でその法定代理人が申請前5年以内に旅行業務に関し不正な行為をしたもの
- イ. 破産者で申請前に復権を得たもの
- ウ. 旅行業者代理業を営もうとする者であって、その代理する旅行業を営む者が2以上であるもの
- エ. 営業所ごとに旅行業務取扱管理者を確実に選任すると認められない者

(6) 「変更登録等」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 第2種旅行業者が第1種旅行業への変更登録の申請をしようとするときは、観光庁長官に変更登録申請書を提出しなければならない。
- イ. 第3種旅行業者が第2種旅行業への変更登録の申請をしようとするときは、主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録申請書を提出しなければならない。
- ウ. 第1種旅行業者が第2種旅行業への変更登録の申請をしようとするときは、主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録申請書を提出しなければならない。
- エ. 旅行業者代理業者は、主たる営業所又はその他の営業所の名称を変更したときは、その日から60日以内にその旨を登録行政庁に届け出なければならない。

(7) 「営業保証金」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 営業保証金は、国債証券、地方債証券をもって、これに充てることができる。
- イ. 旅行業者は、営業保証金を供託した旨の届出を登録行政庁にした後でなければ、その事業を開始してはならない。
- ウ. 旅行業者は、毎事業年度終了後100日以内に、その事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引の額を登録行政庁に報告しなければならない。
- エ. 営業保証金の供託は、登録行政庁の最寄りの供託所にしなければならない。

(8) 「旅行業務取扱管理者の選任」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者等は、営業所ごとに、1人以上の旅行業務取扱管理者を選任しなければならない。
- イ. 旅行者等は、その営業所の旅行業務取扱管理者として選任した者のすべてが欠けるに至ったときは、新たに旅行業務取扱管理者を選任するまでの間は、その営業所において旅行業務に関し旅行者と契約を締結してはならない。
- ウ. 旅行業務取扱管理者は、他の営業所の旅行業務取扱管理者となることができない。
- エ. 旅行者等は、旅行業務に従事した経験が3年未満である者を営業所の旅行業務取扱管理者として選任することはできない。

(9) 次の記述から、「旅行業務取扱管理者の職務」として定められているものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 法第12条の4の規定による取引条件の説明に関する事項
- b. 法第12条の6の規定による外務員の証明書携帯等に関する事項
- c. 法第12条の7及び法第12条の8の規定による広告に関する事項
- d. 法第12条の11の規定による旅程管理業務を行う者に関する事項

- ア. a, b イ. a, c ウ. b, d エ. c, d

(10) 「旅行者から收受する旅行業務の取扱いの料金（企画旅行に係るものを除く。）」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者は、事業の開始前に旅行業務の取扱いの料金を定め、登録行政庁に届け出なければならない。
- b. 旅行者代理業者は、その営業所において、所属旅行者が定めた旅行業務の取扱いの料金を旅行者に見やすいように掲示しなければならない。
- c. 登録行政庁は、旅行者等の業務の運営に関し、取引の公正等を害する事実があると認めるときは、当該旅行者等に対し、旅行業務の取扱いの料金の変更を命ずることができる。
- d. 旅行業務の取扱いの料金は、契約の種類及び内容に応じて定率、定額その他の方法により定められ、旅行者にとって明確でなければならない。

- ア. a, b イ. a, d ウ. b, c エ. c, d

(11) 「旅行業約款」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、旅行者と締結する旅行業務の取扱いに関する契約に関し、旅行業約款を定め、登録行政庁の認可を受けなければならない。
- b. 第2種旅行業者及び第3種旅行業者が使用する標準旅行業約款は、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事が定めて公示する。
- c. 旅行業協会の保証社員である旅行業者は、旅行業約款に記載されている弁済業務保証金からの弁済限度額が変更となる場合は、当該約款の変更に関し、登録行政庁の認可を受けなければならない。
- d. 旅行業者等は、旅行業約款をその営業所において、旅行者に見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。

ア. a, c イ. a, d ウ. b, c エ. c, d

(12) 「取引条件の説明」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、取引条件の説明書面の交付に代えて、政令で定めるところにより、旅行者の承諾を得て、当該書面に記載すべき事項を電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であって国土交通省令・内閣府令で定めるものにより提供することができる。この場合において、当該旅行業者等は、当該書面を交付したものとみなす。
- イ. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約以外の旅行業務に関する契約（旅行に関する相談に応ずる行為に係る旅行業務についての契約を除く。）を締結しようとするときは、旅行中の損害の補償に関する事項を説明しなければならない。
- ウ. 旅行業者等は、企画旅行契約を締結しようとするときは、対価と引き換えに旅行者に対し、当該旅行に関するサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付する場合であっても、取引条件の説明をしなければならない。
- エ. 旅行業者等は、旅行に関する相談に応ずる行為に係る旅行業務について契約を締結する場合は、取引条件の説明を要しない。

(13) 次の記述から、旅行業者等が企画旅行契約を締結しようとする場合、「取引条件を説明するときに交付する書面の記載事項」として定められているものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業務の取扱いの料金に関する事項
- b. 旅程管理業務を行う者の同行の有無
- c. 旅行者が旅行業者等に支払うべき対価及びその収受の方法
- d. 責任及び免責に関する事項

ア. a, b イ. a, c ウ. b, d エ. c, d

(14) 次の記述のうち、旅行業者等が「企画旅行契約を締結したときに交付する書面の記載事項」として定められていないものはどれか。

- ア. 旅行の目的地及び出発日その他の日程
- イ. 旅行に参加する資格を定める場合にあつては、その旨及び当該資格
- ウ. 旅行者が旅行業者等に支払うべき対価に含まれていない旅行に関する経費であつて旅行者が通常必要とするもの
- エ. 契約の申込方法及び契約の成立に関する事項

(15) 「外務員」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者等は、その役員又は使用人のうち、その営業所以外の場所でその旅行業者等のために旅行業務について取引を行う者に、外務員の証明書を携帯させなければ、その者を外務員としての業務に従事させてはならない。
- b. 第1種旅行業者以外の旅行業者の外務員の証明書は、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事が発行する。
- c. 外務員は、その業務を行うときは、外務員の証明書を提示しなければならない。
- d. 外務員は、旅行者が悪意であったときを除き、その所属する旅行業者等に代わつて、旅行者との旅行業務に関する取引についての一切の裁判外の行為を行う権限を有するものとみなす。

- ア. a, b, c イ. a, b, d ウ. a, c, d エ. b, c, d

(16) 次の記述のうち、「企画旅行の広告の表示事項」として定められていないものはどれか。

- ア. 企画者の氏名又は名称及び住所並びに登録番号
- イ. 旅行者が提供を受けることができる運送、宿泊又は食事のサービスの内容に関する事項
- ウ. 旅行者に対する損害の補償に関する事項
- エ. 旅程管理業務を行う者の同行の有無

(17) 次の記述から、「誇大表示をしてはならない事項」として定められているものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行に関するサービスの品質その他の内容に関する事項
- b. 旅行地の景観、環境その他の状況に関する事項
- c. 旅行者が旅行業者等に支払うべき対価に関する事項
- d. 旅行業者等の業務の範囲、資力又は信用に関する事項

- ア. a, b, c イ. a, c, d ウ. b, c, d エ. a, b, c, d

(18) 「標識」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者等は、営業所において、旅行業と旅行者代理業との別及び本邦内の旅行のみについて旅行業務を取り扱う営業所とそれ以外の営業所との別に応じ国土交通省令で定める様式の標識を、公衆に見やすいように掲示しなければならない。
- b. 旅行者等の標識には、当該旅行者等が法人である場合にあっては、その代表者の氏名も記載しなければならない。
- c. 旅行者代理業者の標識には、所属旅行者の登録番号及び氏名又は名称も記載しなければならない。
- d. 旅行者の標識の地の色は青色に、旅行者代理業者の標識の地の色は白色に限られている。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, d エ. c, d

(19) 「企画旅行の円滑な実施のための措置」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者は、企画旅行に関する計画に定めるサービスの旅行者への確実な提供を確保するために旅行の開始前に必要な予約その他の措置を講じなければならない。
- イ. 旅行者は、本邦内の企画旅行を実施する場合には、契約の締結の前に旅行者に旅行地において旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置を講じない旨を説明した場合を除き、これらの措置を講じなければならない。
- ウ. 旅行者は、本邦内の企画旅行を実施する場合には、2人以上の旅行者が同一の日程により行動することを要する区間における円滑な旅行の実施を確保するために必要な集合時刻、集合場所その他の事項に関して指示することを要しない。
- エ. 旅行者は、旅程管理業務を行う者が同行しない本邦外の企画旅行で、当該旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付した場合には、旅行に関する計画に定めるサービスの内容の変更を必要とする事由が生じた場合における代替サービスの手配及び当該サービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置を講ずることを要しない。

(20) 「禁止行為」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者等は、旅行業務に関し取引をした者に対し、その取引によって生じた債務の履行を正当な理由があっても、遅延する行為をしてはならない。
- b. 旅行者等は、旅行業務に関し取引をする者に対し、その取引に関する重要な事項について、故意に事実を告げず、又は不実のことを告げる行為をしてはならない。
- c. 旅行者等は、旅行者に対し、旅行地において施行されている法令に違反するサービスの提供を受けることについてのあっせんを行う旨の広告をしてはならない。
- d. 旅行者等は、旅行者から依頼があった場合でも、旅行地において施行されている法令に違反するサービスの提供を受けることに関し便宜を供与してはならない。

ア. a, b, c イ. a, b, d ウ. a, c, d エ. b, c, d

(21) 「受託契約」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、他の旅行業者が実施する企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。本問において以下同じ。）について、受託契約を締結したときは、旅行業者代理業の登録を受けなくても、当該他の旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者として企画旅行契約を締結することができる。
- イ. 旅行業者は、他の旅行業者が実施する企画旅行について、受託契約を締結したときは、当該受託契約において委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる受託旅行業者の営業所を定めることなく、その全ての営業所で委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる。
- ウ. 受託契約を締結した委託旅行業者と受託旅行業者とが、当該受託旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者のうち当該委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができるものを定めたときは、当該旅行業者代理業者は、委託旅行業者との間で受託契約を締結しなければならない。
- エ. 旅行業者は、他の旅行業者が実施する企画旅行について、複数の旅行業者と受託契約を締結することができる。

(22) 次の記述のうち、登録行政庁が旅行業者等に命ずることができる措置（「業務改善命令」として定められていないものはどれか。

- ア. 旅行業務取扱管理者を解任すること。
- イ. 企画旅行に関し旅行者から収受する対価を変更すること。
- ウ. 旅程管理のための措置を確実に実施すること。
- エ. 旅行業協会に加入すること。

(23) 登録行政庁が行う「登録の取消し等」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者等が旅行業法に違反したときは、6箇月以内の期間を定めて業務の全部の停止を命じることができる。
- イ. 法人である旅行業者等の役員が禁錮以上の刑に処せられることとなったときは、その登録を取り消すことができる。
- ウ. 旅行業者が不正の手段により有効期間の更新の登録を受けたときは、その登録を取り消すことができる。
- エ. 旅行業者等が登録を受けてから6箇月以内に事業を開始せず、又は引き続き6箇月以上事業を行っていないと認めるときは、その登録を取り消すことができる。

(24) 次の記述のうち、旅行業協会が適正かつ確実に実施しなければならない「業務」として定められていないものはどれか。

- ア. 旅行業務の適切な運営を確保するための旅行業者等に対する立入検査
- イ. 旅行業務の取扱いに従事する者に対する研修
- ウ. 旅行者及び旅行に関するサービスを提供する者からの旅行業者等の取り扱った旅行業務に対する苦情の解決
- エ. 旅行業務に関し社員である旅行業者又は当該旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者と取引をした旅行者に対しその取引によって生じた債権に関し弁済をする業務

(25) 「弁済業務保証金」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業協会に加入しようとする旅行業者は、その加入しようとする日までに、弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- イ. 保証社員は、変更登録を受けた場合においてその弁済業務保証金分担金の額が増加することとなるときは、変更登録を受けた日から14日以内に、その増加することとなる額の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- ウ. 保証社員は、弁済業務規約の変更により弁済業務保証金分担金の額が増額されたときは、弁済業務規約で定める期日までに、その増額分の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- エ. 還付充当金を納付すべき旨の通知を受けた保証社員は、その通知を受けた日から14日以内に、その通知された額の還付充当金を旅行業協会に納付しなければならない。

〈余 白〉

2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

1. 標準旅行業約款に関する以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 募集型企画旅行契約の部「適用範囲」「用語の定義」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 募集型企画旅行に関する契約は約款の定めるところによるが、約款に定めのない事項については、法令又は一般に確立された慣習による。
- イ. 募集型企画旅行とは、旅行業者が旅行者からの依頼により、旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービスの内容並びに旅行者が旅行業者に支払うべき旅行代金の額を定めた旅行に関する計画を作成し、これにより実施する旅行をいう。
- ウ. 海外旅行とは、本邦外のみをいう。
- エ. 旅行業者が法令に反せず、かつ、旅行者の不利にならない範囲で口頭により特約を結んだときは、その特約は約款に優先して適用される。

(2) 募集型企画旅行契約の部「契約の締結」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 通信契約の申込みをしようとする旅行者は、申込みをしようとする募集型企画旅行の名称、旅行開始日、会員番号その他の事項を旅行業者に通知しなければならない。
- イ. 旅行業者は、業務上の都合があるとき、募集型企画旅行契約の締結に応じないことがある。
- ウ. 電話等により募集型企画旅行契約を予約した旅行者が所定の期間内に申込金を提出しない場合又は会員番号等を通知しない場合は、旅行業者は、当該予約がなかったものとして取り扱う。
- エ. 募集型企画旅行の参加に際し、特別な配慮を必要とする旨を、旅行者が契約の申込時に申し出たときは、旅行業者は可能な範囲内でこれに応じなければならないが、この申出に基づき、旅行業者が旅行者のために講じた特別な措置に要する費用は、旅行業者の負担となる。

(3) 募集型企画旅行契約の部「契約の成立時期」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでい
るものはどれか。

- a. 募集型企画旅行契約は、旅行業者が契約の締結を承諾し、申込金を受理した時に成立する。
- b. 通信契約は、旅行業者が契約の締結を承諾する旨の通知を発した時に成立する。ただし、当該契約において電子承諾通知を発する場合は、当該通知が旅行者に到達した時に成立する。
- c. 募集型企画旅行契約は、書面による特約をもって、申込金の支払いを受けることなく、旅行業者の契約の締結の承諾のみにより契約を成立させることがある。この場合において、旅行業者は募集型企画旅行契約の成立時期を、その書面において明らかにする。

- ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(4) 募集型企画旅行契約の部「情報通信の技術を利用する方法」「契約書面の交付」「確定書面」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者が契約の成立前に旅行者に交付しなければならない契約書面は、旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件及び旅行業者の責任に関する事項を記載した書面である。
- イ. 旅行業者は、契約書面において、確定された旅行日程、運送若しくは宿泊機関の名称をすべて記載した場合は、確定書面の交付を要しない。
- ウ. 第3種旅行業者の企画・実施する募集型企画旅行契約において、旅行者は、契約書面に記載する金額の旅行代金を旅行開始日の2日前までに支払わなければならない。
- エ. 旅行業者は、あらかじめ旅行者の承諾を得ることなく、契約書面又は確定書面の交付に代えて、情報通信の技術を利用する方法により当該書面に記載すべき事項を提供することができる。

(5) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の解除権」に関する次の記述のうち、旅行者が旅行開始前に取消料を支払うことなく契約を解除できるものはどれか。(いずれも、取消料の支払いを要する期間内の解除とする。)

- ア. 利用列車として新幹線「ひかり」普通車指定席と契約書面に記載されていたが、旅行業者によって新幹線「こだま」普通車指定席に変更されたとき。
- イ. 旅行者が入院したため、旅行に参加できなくなったとき。
- ウ. 契約書面に「Aレストランで昼食」と記載されていたが、旅行業者によって「Bレストランで昼食」に変更されたとき。
- エ. 旅行者の配偶者の親が死亡したとき。

(6) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の旅行開始前の解除権」に関する次の記述のうち、旅行業者が契約を解除することができないものはどれか。(いずれの場合も解除に係る旅行者への説明は行うものとする。)

- ア. 旅行者が病気にかかり、当該旅行に耐えられないと認められるとき。
- イ. 9月10日出発の日帰り旅行において、参加者の数が契約書面に記載した最少催行人員に達しないため、当該旅行を中止する旨を9月7日に通知したとき。
- ウ. 花見を目的とする国内旅行において、異常気象により開花が遅れ、花見そのものがないおそれが極めて大きいことから、当該旅行を実施しない旨を旅行開始日の前日から起算してさかのぼって2日目に当たる日に旅行者に通知したとき。
- エ. 旅行者が他の旅行者に迷惑を及ぼし、又は団体旅行の円滑な実施を妨げるおそれがあると認められるとき。

(7) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の旅行開始後の解除権」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行開始後に2名の旅行者が旅行契約を解除したため、旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員を下回ったとき、旅行業者は、旅行者に理由を説明して、募集型企画旅行契約の一部を解除することができる。
- イ. 同行した添乗員が旅行中に負傷し、旅行の継続に耐えられないとき、旅行業者は、旅行者に理由を説明して、募集型企画旅行契約の一部を解除することができる。
- ウ. 運送・宿泊機関等の旅行サービス提供の中止が生じた場合であって、旅行の継続が不可能となったとき、旅行業者は、旅行者に理由を説明した上でその承諾を得なければ募集型企画旅行契約の一部を解除することができない。
- エ. 約款の定めにより旅行業者が募集型企画旅行契約の一部を解除したとき、旅行業者と旅行者との間の契約関係は、将来に向かってのみ消滅する。

(8) 募集型企画旅行契約の部「旅行代金の払戻し」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
(いずれも通信契約ではないものとする。)

- ア. 旅行開始前に、契約内容の変更により旅行代金を減額したとき、旅行業者は、旅行者に対し当該減額した金額を、減額が発生した日の翌日から起算して30日以内に払い戻さなければならない。
- イ. 旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員に達しなかったため旅行業者が旅行開始前に契約を解除したとき、旅行業者は、当該解除の翌日から起算して7日以内に既に収受している旅行代金を払い戻さなければならない。
- ウ. 旅行地において旅行者の添乗員に対する暴行により旅行の安全かつ円滑な実施を妨げたため、旅行業者が契約の一部を解除したとき、旅行業者は、払い戻すべき金額が生じても払い戻すことを要しない。
- エ. 旅行業者の責に帰すべき事由により契約書面に記載した旅行日程に従った旅行の実施が不可能になり旅行者が旅行開始前に契約を解除したとき、旅行業者は、既に収受している旅行代金を所定の期日までに払い戻せば、損害賠償責任を免れることができる。

(9) 募集型企画旅行契約の部「団体・グループ契約」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、特約を結んだ場合を除き、契約責任者はその団体・グループを構成する旅行者（以下、本問において「構成者」という。）の募集型企画旅行契約の締結に関する一切の代理権を有しているものとみなし、当該団体・グループに係る旅行業務に関する取引は、当該契約責任者との間で行う。
- b. 旅行業者は、契約責任者が構成者に対して現に負い、又は将来負うことが予測される債務又は義務については、その責任の一部を負う。
- c. 契約責任者は、旅行業者の定める日までに、構成者の名簿を旅行業者に提出しなければならない。

- ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(10) 募集型企画旅行契約の部「旅程管理」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、旅行中の旅行者が、傷害等により保護を要する状態にあると認めるときは、必要な措置を講ずることがある。この場合において、これが旅行業者の責に帰すべき事由によるものでないときは、当該措置に要した費用は旅行者の負担となる。
- b. 旅行業者は、旅行サービスの内容を変更するときは、変更後の旅行サービスが当初の旅行サービスと同様のものとなるよう努めなければならない。
- c. 旅行者は、旅行開始日から旅行終了日までのすべての日において8時から20時までの間に限り、旅行を安全かつ円滑に実施するための旅行業者の指示に従わなければならない。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(11) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の責任」に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者が手配を代行させた者（手配代行者）の過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、当該手配代行者がその損害を賠償する責任を負い、旅行業者は損害賠償責任を負わない。
- b. 旅行業者は、募集型企画旅行契約の履行に当たって、旅行業者の故意又は過失により旅行者に損害を与えたときは、その損害発生の翌日から起算して2年以内に旅行業者に対して通知があったときに限り、その損害を賠償する責任を負う。
- c. 旅行業者が故意又は重大な過失によって旅行者の手荷物に与えた損害を賠償するときの賠償限度額は、定められていない。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(12) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行業者又は手配代行者の故意又は過失により契約書面に記載した契約内容の重要な変更が生じた場合は、旅行終了日の翌日から起算して30日以内に変更補償金を旅行者に支払わなければならない。
- イ. 旅行業者は、契約書面に記載した契約内容の重要な変更が生じた場合、旅行者から請求があったときに限り変更補償金を支払えばよい。
- ウ. 旅行業者が支払う変更補償金の額は、旅行者1名に対して1企画旅行につき旅行代金に15%未満の旅行業者が定める率を乗じた額をもって限度とする。
- エ. 旅行業者は、旅行者1名に対して1企画旅行につき支払うべき変更補償金の額が1,000円未満であるときは、変更補償金を支払わない。

(13) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述から、変更補償金の支払いが必要なものをすべて選んでいるものはどれか。(変更補償金の額は、約款に定める支払うべき額を超えるものとする。)

- a. 確定書面に利用航空会社として「A航空〇〇便ビジネスクラス」と記載していたが、旅行開始後にA航空の過剰予約受付により座席不足が発生したため、「B航空△△便エコノミークラス」に変更になった。
- b. 確定書面に記載していた乗車予定の列車が旅行開始後運転休止となり、翌日の列車に変更になった。
- c. 契約書面には宿泊施設として「A旅館又はB旅館」と記載し、確定書面では「A旅館」と確定したが、現地ではA旅館の過剰予約受付により部屋不足が発生したため、「B旅館」に宿泊が変更になった。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(14) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「特別補償」「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行業者に損害賠償責任が生ずるか否かを問わず、旅行者が旅行参加中にその生命、身体又は手荷物の上に被った一定の損害について、あらかじめ定める額の補償金及び見舞金を支払う。
- イ. 旅行業者は、旅行業者に故意又は過失がない場合であっても、書面による特約をもって補償金及び見舞金の額を減額することはできない。
- ウ. 旅行業者の募集型企画旅行参加中の旅行者を対象として、別途の旅行代金を収受して当該旅行業者が実施する募集型企画旅行については、旅行者との間に主たる募集型企画旅行契約とは別の旅行契約が成立しているため旅行業者にはそれぞれの旅行契約について特別補償責任が生じる。
- エ. 旅行業者は、いかなる場合においても、事故の日から180日を経過した後の通院に対しては、通院見舞金を支払わない。

(15) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、携帯品損害補償金及び補償金等の支払いの対象となるものはどれか。

- ア. 宿泊した旅館に置き忘れた腕時計（5万円相当）
- イ. 国内の企画旅行参加中に発生した火山の噴火によって怪我をし、3日間入院した場合
- ウ. 企画旅行の自由行動中にスキューバダイビングを行い、事故で怪我をして5日間通院した場合
- エ. 企画旅行参加中の旅行者が、昼食に供された食べ物に混入した細菌が原因の食物中毒で入院した場合

(16) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、団体・グループ契約において契約責任者と受注型企画旅行契約を締結する場合において、申込金の支払いを受けることなく契約を締結する旨を記載した書面を交付することにより受注型企画旅行契約を成立させることがある。
- b. 受注型企画旅行契約を締結した旅行者は、旅行業者の承諾を得なければ、契約上の地位を第三者に譲り渡すことができない。
- c. 旅行業者は、受注型企画旅行契約の成立後速やかに、旅行者に対して依頼の内容に沿って作成した旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件に関する企画の内容を記載した企画書面を交付する。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(17) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述から、正しいものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、旅行者が他の旅行者に迷惑を及ぼし、又は団体行動の円滑な実施を妨げるおそれがあるときは、受注型企画旅行契約の締結に応じないことがある。
- b. 旅行業者は、企画書面において企画料金の金額を明示した場合は、当該金額を契約書面において明示する。この場合、旅行業者は、宿泊を伴う国内旅行では、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって21日目に当たる日に旅行者が自己の都合で受注型企画旅行契約を解除したときは、企画料金に相当する金額を取消料として収受することができる。
- c. 旅行者は、受注型企画旅行契約が成立した後においても、旅行業者に対し、旅行日程、旅行サービスの内容その他の受注型企画旅行契約の内容を変更するよう求めることができる。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(18) 手配旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 「手配旅行契約」とは、旅行業者が旅行者の委託により、旅行者のために代理、媒介又は取次をすること等により旅行者が運送・宿泊機関等の提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受けることができるように、手配することを引き受ける契約をいう。
- イ. 「旅行代金」とは、旅行業者が旅行サービスを手配するために、運賃、宿泊料その他の運送・宿泊機関等に対して支払う費用及び旅行業者所定の旅行業務取扱料金（変更手数料及び取消手数料金を除く。）をいう。
- ウ. 旅行業者は、手配旅行契約の履行に当たって、手配の全部又は一部を他の旅行業者、手配を業として行う者その他の補助者に代行させることができない。
- エ. 旅行業者は、手配旅行契約の成立後速やかに、旅行者に、旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件及び旅行業者の責任に関する事項を記載した契約書面を交付する。ただし、旅行業者が手配するすべての旅行サービスについて乗車券類、宿泊券その他の旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付するときは、当該契約書面を交付しないことがある。

(19) 手配旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、契約責任者からの求めにより、団体・グループに添乗員を同行させ、添乗サービスを提供することがある。この場合、添乗員が行う添乗サービスの内容は、原則として、あらかじめ定められた旅行日程上、団体・グループ行動を行うために必要な業務とする。
- イ. 旅行者の責に帰すべき事由により手配旅行契約が解除されたときは、旅行者は、いまだ提供を受けていない旅行サービスに係る取消料、違約料その他の運送・宿泊機関等に対して既に支払い、又はこれから支払わなければならない費用を負担するほか、旅行業者に対し、旅行業者所定の取消手続料金及び旅行業者が得るはずであった取扱料金を支払わなければならない。
- ウ. 旅行業者は、旅行開始前において、運送・宿泊機関等の運賃・料金の改訂、為替相場の変動その他の事由により旅行代金の変動を生じた場合は、当該旅行代金を変更することができる。
- エ. 団体・グループ手配において、契約責任者からその団体・グループを構成する旅行者の変更の申出があったとき、旅行業者は、旅行開始前においては、可能な限りこれに応じるが、旅行開始後は応じる必要はない。

(20) 旅行相談契約の部における次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者が相談に対する旅行業務取扱料金を収受することを約して、旅行者の委託により、旅行に必要な経費の見積りを行うことを引き受けることは、旅行相談契約にあたる。
- イ. 旅行相談契約は、旅行業者が契約の締結を承諾して、申込金を受理した時に成立する。
- ウ. 旅行業者は、電話等の通信手段による旅行相談契約の申込みを受け付けるときは、申込書の提出を受けなければならない。
- エ. 旅行業者が作成した旅行の計画に記載した運送・宿泊機関等について、満員等の事由により、旅行に関するサービスの提供をする契約を締結できなかったとき、旅行業者は、その損害を賠償する責任を負う。

2. 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. バス会社に旅客の運送を申込み者は、契約責任者の氏名又は名称及び住所、その他この約款で定められた必要事項を記載した運送申込書を提出しなければならないが、乗客の氏名については必要記載事項ではない。
- イ. 運送契約は、バス会社が乗車券を契約責任者に交付したときに成立する。
- ウ. バス会社が収受する運賃及び料金は、乗車時において地方運輸局長に届け出て実施しているものによる。
- エ. バス会社は、乗車券の券面に記載した配車日時に所定の配車をした場合において、配車時刻から30分を経過しても旅客が乗車についての意思表示をしないときには、当該車両について当該運送契約に係る運送の全部が終了したものとみなす。ただし、天災その他やむを得ない事由による場合には、適用しない。

3. 海上運送法第9条第3項の規定に基づく標準運送約款（フェリーを含む一般旅客定期航路事業に関する標準運送約款）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 大人1人に同伴されて乗船する1歳以上の小学校に修学していない小児の運賃及び料金は、2人まで無料である。
- イ. フェリー会社は、年齢、健康上その他の理由によって生命が危険にさらされ、又は健康が著しく損なわれるおそれのある者からの運送契約の申込みを拒絶し、又は既に締結した運送契約を解除することがある。
- ウ. フェリー会社は、手回り品その他旅客の保管する物品の滅失、き損等により生じた損害については、フェリー会社又はその使用人に過失があったことが証明された場合に限り、これを賠償する責任を負う。
- エ. フェリー会社は、旅客が、船長又はフェリー会社の係員の指示に従い、乗船港の乗降施設に達した時から下船港の乗降施設を離れた時までの間に、その生命又は身体を害した場合は、これにより生じた損害について賠償する責任を負う。

4. 国内旅客運送約款（日本航空・全日本空輸）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 航空会社が旅客に対し航空券を発行する日において有効な運送約款及びこれに基づいて定められた規定は、当該旅客の運送に適用される。
- イ. 予約事項に搭乗予定便を含まない航空券の有効期間は、航空券発行の日の翌日から起算して90日間である。
- ウ. 航空会社は、旅客が航空会社係員の業務の遂行を妨げ、又はその指示に従わない場合は、当該旅客の搭乗を拒絶し、又は寄航地飛行場で降機させることができ、当該行為の継続を防止するため当該旅客を拘束することもできる。
- エ. 航空会社は、12歳以上の旅客に同伴された座席を使用しない3歳未満の旅客（幼児）については、同伴者1人に対し1人に限り無償にてその運送を引き受ける。

5. 旅客鉄道会社（JR）の旅客営業規則に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅客の運送等の契約は、その成立について別段の意思表示があった場合を除き、旅客等が所定の運賃・料金を支払い、乗車券類等その契約に関する証票の交付を受けた時に成立する。
- イ. 期間の計算をする場合は、その初日は時間の長短にかかわらず、1日として計算する。
- ウ. 幹線と地方交通線にまたがる片道乗車券において、乗車区間の営業キロが585キロメートル、運賃計算キロが605キロメートルの場合、乗車券の有効期間は5日間である。
- エ. 旅客は、旅客運賃・料金について2以上の割引条件に該当する場合であっても、同一の乗車券類について、重複して旅客運賃・料金の割引を請求することができないが、学生割引普通乗車券を購入する旅客は、往復割引の普通旅客運賃に対して、学生割引の適用を請求することができる。

6. モデル宿泊約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 宿泊客が、ホテル（旅館）が定める火災予防上必要な利用規則の禁止事項に従わないときは、ホテル（旅館）は、宿泊契約を解除することがある。
- イ. 宿泊客が、宿泊日当日、ホテル（旅館）のフロントにおいて、宿泊客の氏名等の登録時に宿泊料金の支払いを、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、あらかじめ、それらを呈示しなければならない。
- ウ. 宿泊客が、宿泊中に当初申込み時の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、ホテル（旅館）は、その申し出がなされた時点で当初の宿泊契約が継続されたものとして処理する。
- エ. 宿泊客が、ホテル（旅館）内に持ち込んだ貴重品であってフロントに預けなかったものについて、当該ホテル（旅館）の故意又は過失により損害が生じたときは、ホテル（旅館）は、その損害を賠償する。

〈余 白〉

3 国内旅行実務

1. 次の記述について、該当する山岳を、下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

- (1) 関東地方東部にあるこの山は、西側に位置する男体山と東側に位置する女体山からなる。毎年2月～3月にかけて開催される「梅まつり」期間中には、ガマの油売り口上、甘酒、梅茶のサービスなどがあり、多くの観光客が訪れる。
- (2) 薩摩半島南端に位置するこの山は、霧島屋久国立公園内に所在し、別名「薩摩富士」とも呼ばれている。近くには池田湖、長崎鼻などの観光地がある。
- (3) 東京都の西部にあり、山中に真言宗の寺院があるこの山は、ミシュランの旅行ガイドで日光、富士山と同じ最高の「3つ星」観光地にランクされたことで近年数多くの観光客が訪れている。
- (4) 滋賀県と岐阜県の県境にある滋賀県最高峰のこの山は、わが国初の国定公園として指定された琵琶湖国定公園内に所在し、晴れた時には頂上から眼下に琵琶湖を望むことができる。古くから霊峰とされ山頂には日本武尊の像がある。
- (5) 北海道東部にあるこの山は、屈斜路湖や摩周湖などと同じ国立公園内に所在し、マリモが生息することで有名な湖から望むことができる。

[語 群]

- | | | | | |
|--------|---------|--------|--------|--------|
| ア. 赤城山 | イ. 雌阿寒岳 | ウ. 比叡山 | エ. 天城山 | オ. 伊吹山 |
| カ. 開聞岳 | キ. 新燃岳 | ク. 斜里岳 | ケ. 高尾山 | コ. 筑波山 |

2. 次の祭り・行事の開催月について、該当する月を、下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

- | 〈祭り・行事〉 | 〈開催月〉 | 〈都道府県〉 |
|---------------------|--------------------------|--------|
| (1) さっぽろ雪まつり | — <input type="text"/> — | 北海道 |
| (2) 山形花笠まつり | — <input type="text"/> — | 山形県 |
| (3) 若草山焼き | — <input type="text"/> — | 奈良県 |
| (4) ひろしまフラワーフェスティバル | — <input type="text"/> — | 広島県 |
| (5) 長崎くんち | — <input type="text"/> — | 長崎県 |

[語 群]

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| ア. 1月 | イ. 2月 | ウ. 3月 | エ. 4月 | オ. 5月 | カ. 6月 |
| キ. 7月 | ク. 8月 | ケ. 9月 | コ. 10月 | サ. 11月 | シ. 12月 |

3. 次の各観光地・観光資源とJRの主要な最寄り駅の組合せについて、最寄り駅が所在する路線名を、下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

〈観光地・観光資源〉	〈最寄り駅〉	〈路線名〉
(1) 犬吠埼	—— 銚子駅	—— <input type="text"/>
(2) 大沼	—— 大沼公園駅	—— <input type="text"/>
(3) かずら橋	—— 大歩危駅	—— <input type="text"/>
(4) 東尋坊	—— 芦原温泉駅	—— <input type="text"/>
(5) 磐梯山	—— 猪苗代駅	—— <input type="text"/>

[語 群]

ア. 小浜線	イ. 高德線	ウ. 総武本線	エ. 外房線	オ. 室蘭本線
カ. 土讃線	キ. 函館本線	ク. 磐越西線	ケ. 磐越東線	コ. 北陸本線

4. 以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 次の国立公園の区域内にある観光地及び温泉地の組合せのうち、正しいものはどれか。

〈国立公園〉	〈観光地〉	〈温泉地〉
ア. 雲仙天草国立公園	—— 平戸	—— 嬉野温泉
イ. 知床国立公園	—— 釧路湿原	—— ウトロ温泉
ウ. 中部山岳国立公園	—— 上高地	—— 下呂温泉
エ. 日光国立公園	—— 戦場ヶ原	—— 那須湯本温泉

(2) 世界自然遺産“白神山地”は2つの都道府県にまたがって登録されているが、その組合せとして正しいものはどれか。

ア. 青森県・秋田県	イ. 青森県・岩手県
ウ. 秋田県・岩手県	エ. 秋田県・山形県

(3) 世界文化遺産“紀伊山地の霊場と参詣道”は3つの都道府県にまたがって登録されているが、その組合せとして正しいものはどれか。

ア. 大阪府・奈良県・和歌山県	イ. 大阪府・奈良県・三重県
ウ. 大阪府・三重県・和歌山県	エ. 奈良県・三重県・和歌山県

(4) ふるさとの名を冠した富士について、一般名称と所在する都道府県の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- ア. 蝦夷富士 —— 羊蹄山 —— 北海道
- イ. 讃岐富士 —— 飯野山 —— 香川県
- ウ. 南部富士 —— 岩木山 —— 岩手県
- エ. 伯耆富士 —— 大山 —— 鳥取県

(5) 日本六古窯のひとつに数えられ、一般には狸の置物が有名で、滋賀県を代表する陶磁器は次のどれか。

- ア. 瀬戸焼
- イ. 常滑焼
- ウ. 越前焼
- エ. 信楽焼

(6) 阿蘇山の溶岩流と五ヶ瀬川の浸食によって形成された高千穂峡にある滝で、日本の滝百選にも選定されたのは次のどれか。

- ア. 那智の滝
- イ. 白糸の滝
- ウ. 真名井の滝
- エ. 吹割の滝

(7) 日本百名城のひとつであり、天守閣が国宝に指定されている井伊家の居城で、世界遺産暫定リストにも記載されているのは次のどれか。

- ア. 彦根城
- イ. 大阪城
- ウ. 松山城
- エ. 広島城

(8) 武田信玄の陣中食とも伝えられる甲府盆地を中心とした地域で作られる郷土料理で、野菜と手打ち麺を味噌仕立てで煮込んだものは次のどれか。

- ア. けんちん汁
- イ. のっぺい汁
- ウ. ほうとう
- エ. 三平汁

(9) 青森県にある日本最大級の縄文集落遺跡で、竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが発掘されている国指定の特別史跡は次のどれか。

- ア. 三内丸山遺跡
- イ. 岩宿遺跡
- ウ. 登呂遺跡
- エ. 斎場御嶽

5. 次の各行程で、前後に最も近い観光地をそれぞれ1つ選んで を埋め、モデルコースを完成させなさい。

(1) 那覇市内 —— 旧海軍指令部壕 —— ひめゆりの塔 —— 沖縄平和祈念堂 —— —— 那覇市内

ア. 玉泉洞 イ. 龍泉洞 ウ. 龍河洞 エ. 秋芳洞

(2) 広島駅 —— 厳島神社 —— —— 瑠璃光寺 —— 長門湯本温泉

ア. 渡月橋 イ. 錦帯橋 ウ. 西海橋 エ. はりまや橋

(3) 日光駅 —— 日光東照宮 —— —— 中禅寺湖 —— 日光湯元温泉

ア. 八幡坂 イ. 清水坂 ウ. いろは坂 エ. 田原坂

(4) 長野駅 —— 善光寺 —— —— 野尻湖 —— 赤倉温泉

ア. 郡上八幡 イ. 川越 ウ. 小布施 エ. 伊賀上野

(5) 湯の川温泉 —— 函館山 —— —— トラピスチヌ修道院 —— 函館駅

ア. 積丹岬 イ. 五稜郭 ウ. 小清水原生花園 エ. 霧多布湿原

6. 貸切バスによる運送に関する次の設問について、選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(注) 一般貸切自動車運送事業標準約款によるものとする。

6月20日配車日、1台9万円で契約した貸切バス5台の運送契約を、契約責任者の都合で6月12日に1台減車した。

この場合における違約料について正しいものはどれか。

ア. $90,000円 \times 10\% = 9,000円$

イ. $90,000円 \times 20\% = 18,000円$

ウ. $90,000円 \times 30\% = 27,000円$

エ. $90,000円 \times 50\% = 45,000円$

7. フェリーによる運送に関する次の設問について、選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(注) 海上運送法第9条第3項の規定に基づく標準運送約款によるものとする。

また、年齢は乗船日現在とする。なお、団体扱いは適用しないものとする。

11歳の小学生10人、12歳の小学生10人、付添いの大人4人、運転手1人がバス1台でフェリーの2等船室を利用する場合の運賃算出方法で正しいものはどれか。

〈資料〉

2等旅客運賃 : 大人1人につき6,000円
小児1人につき3,000円

自動車航送運賃 : 30,000円

ア. $(3,000円 \times 20人) + (6,000円 \times 4人) + 30,000円 = 114,000円$

イ. $(3,000円 \times 20人) + (6,000円 \times 5人) + 30,000円 = 120,000円$

ウ. $(3,000円 \times 10人 + 6,000円 \times 10人) + (6,000円 \times 4人) + 30,000円 = 144,000円$

エ. $(3,000円 \times 10人 + 6,000円 \times 10人) + (6,000円 \times 5人) + 30,000円 = 150,000円$

8. 国内航空2社(日本航空・全日本空輸)による運送に関する以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 予約変更ができる運賃の航空券1枚を購入した旅客が、出発前日に払い戻しを行った。この場合における払い戻しに関する手数料として正しいものはどれか。

ア. 払戻手数料のみ必要

イ. 取消手数料のみ必要

ウ. 払戻手数料、取消手数料とも必要

エ. 払戻手数料、取消手数料とも不要

(2) 次の空港について、空港コードとして正しいものはどれか。

① 旭川空港

ア. AKW

イ. ASK

ウ. AKJ

エ. AXT

② 仙台空港

ア. SED

イ. SDI

ウ. SPK

エ. SDJ

③ 能登空港

ア. NTJ

イ. NTQ

ウ. NTX

エ. NGO

④ 松山空港

ア. MYJ

イ. MMY

ウ. MYE

エ. MMJ

⑤ 宮崎空港

ア. KOJ

イ. KMJ

ウ. KMI

エ. KIX

9. 宿泊に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

(注) モデル宿泊約款によるものとする。

- ア. 基本宿泊料金が1人当たり1泊2食につき10,000円の旅館における室料相当額は、「10,000円×70% = 7,000円」である。
- イ. 基本宿泊料金(室料)が15,000円、チェックアウトが午前10時と定められたホテルで、正午まで延長利用したときの時間外追加料金は5,000円である。
- ウ. 基本宿泊料金が大人1人当たり1泊2食につき15,000円の旅館において、大人と同宿した小学生が、子供用食事と寝具の提供を受けたときの子供料金は10,500円である。
- エ. 6泊7日の宿泊契約をしていた旅館に対し、2泊3日に短縮した場合の違約金は1日分である。

10. 旅客鉄道会社(JR)に関する以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

- (1) 特急料金の乗継割引に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。なお、いずれも最初の列車の乗車日当日に乗り継ぐものとし、途中下車はしないものとする。また、記載した特急料金は通常期の無割引の指定席特急料金の額とする。

ア. 直江津駅 ^{特急「北越」} ~~-----~~ 長岡駅 ^{新幹線「とき」} ~~-----~~ 東京駅 ^{新幹線「のぞみ」} ~~-----~~ 小倉駅 ^{特急「ソニック」} ~~-----~~ 大分駅
◇「北越」及び「ソニック」に乗継割引が適用される。

イ. 和歌山駅 ^{特急「くろしお」} ~~-----~~ 新大阪駅 ^{新幹線「さくら」} ~~-----~~ 新鳥栖駅 ^{特急「かもめ」} ~~-----~~ 長崎駅
特急料金1,450円 特急料金1,700円
◇「かもめ」に乗継割引が適用される。

ウ. 出雲市駅 ^{特急「やくも」} ~~-----~~ 岡山駅 ^{新幹線「のぞみ」} ~~-----~~ 東京駅 ^{特急「わかしお」} ~~-----~~ 安房鴨川駅
◇「やくも」に乗継割引が適用される。

エ. 新青森駅 ^{特急「スーパー白鳥」} ~~-----~~ 函館駅 ^{特急「スーパー北斗」} ~~-----~~ 札幌駅 ^{特急「オホーツク」} ~~-----~~ 網走駅
◇「スーパー白鳥」及び「スーパー北斗」に乗継割引が適用される。

(2) 団体旅客の取り扱いに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 指定保証金は、申込人員の9割に相当する人員（1人未満の人数は切り捨て）に対し、1人につき210円である。
- イ. 学生団体に対しては、団体旅客が31人以上50人までのときは、うち1人を無賃扱い人員とする。
- ウ. B小口団体とは、大口団体以外の団体であって、31人以上の人員によって構成された団体旅客をいう。
- エ. 大口団体にあつては、当該団体の始発駅出発日の9箇月前の日から2箇月前の日までに旅客運送の申込みを行うものとする。

(3) 大人20人、添乗員1人で構成する普通団体が繁忙期に次の行程で旅行した。行程及び資料に基づき、次の設問について該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。

(注) 当日に乗り継ぐものとし、途中下車はしないものとする。なお、乗車券、特急券、グリーン券は旅行開始前に一括して購入するものとする。また、団体乗車券は一葉で発売されたものとする。

〈行程〉



〈資料〉

京都駅 ~新山口駅	営業キロ	513.4km
	運賃計算キロ	517.8km
新山口駅~津和野駅 (地方交通線)	営業キロ	62.9km
	賃率換算キロ	69.2km

3社の本州内幹線の普通運賃表

営業キロ	片道運賃
61~70km	1,110円
501~520km	7,980円
561~580km	8,720円
581~600km	9,030円

料金表

区 間	普通車指定席利用時の 通常期の指定席特急料金	グリーン料金
京都駅~新山口駅 (のぞみ)	5,640円	5,150円
新山口駅~津和野駅	1,660円	——

① 当該団体旅客の運賃の算出方法で正しいものはどれか。

ア. $517.8\text{km} + 69.2\text{km} = 587.0\text{km} \rightarrow 9,030\text{円}$ ----- (a)
 $(a) \times (1 - 0.15) = 7,675.5\text{円} \rightarrow 7,670\text{円}$ ----- (b)
 $(b) \times (21\text{人} - 1\text{人}) = \underline{153,400\text{円}}$

イ. $513.4\text{km} + 62.9\text{km} = 576.3\text{km} \rightarrow 8,720\text{円}$ ----- (a)
 $(a) \times (1 - 0.15) = 7,412\text{円} \rightarrow 7,410\text{円}$ ----- (b)
 $(b) \times 21\text{人} = \underline{155,610\text{円}}$

ウ. $517.8\text{km} \rightarrow 7,980\text{円}$ ----- (a)
 $69.2\text{km} \rightarrow 1,110\text{円}$ ----- (b)
 $(a) + (b) \times (1 - 0.1) = 8,181\text{円} \rightarrow 8,180\text{円}$ ----- (c)
 $(c) \times (21\text{人} - 1\text{人}) = \underline{163,600\text{円}}$

エ. $517.8\text{km} + 69.2\text{km} = 587.0\text{km} \rightarrow 9,030\text{円}$ ----- (a)
 $(a) \times (1 - 0.1) = 8,127\text{円} \rightarrow 8,120\text{円}$ ----- (b)
 $(b) \times 21\text{人} = \underline{170,520\text{円}}$

② 当該団体旅客の料金の算出方法で正しいものはどれか。

ア. $(5,640\text{円} - 510\text{円}) + \{(1,660\text{円} + 200\text{円}) \div 2\} = 6,060\text{円}$ ----- (a)
 $(a) + 5,150\text{円} = 11,210\text{円}$ ----- (b)
 $(b) \times 21\text{人} = \underline{235,410\text{円}}$

イ. $(5,640\text{円} + 200\text{円} - 510\text{円}) + \{(1,660\text{円} + 200\text{円}) \div 2\} = 6,260\text{円}$ ----- (a)
 $(a) + 5,150\text{円} = 11,410\text{円}$ ----- (b)
 $(b) \times (21\text{人} - 1\text{人}) = \underline{228,200\text{円}}$

ウ. $(5,640\text{円} - 510\text{円}) + (1,660\text{円} \div 2) = 5,960\text{円}$ ----- (a)
 $(a) + 5,150\text{円} = 11,110\text{円}$ ----- (b)
 $(b) \times 21\text{人} = \underline{233,310\text{円}}$

エ. $(5,640\text{円} + 200\text{円} - 510\text{円}) + (1,660\text{円} \div 2) = 6,160\text{円}$ ----- (a)
 $(a) + 5,150\text{円} = 11,310\text{円}$ ----- (b)
 $(b) \times (21\text{人} - 1\text{人}) = \underline{226,200\text{円}}$

(4) 大人1人が次の行程を通常期に旅行する場合、当該行程及び資料に基づき、料金の算出方法として正しいものはどれか。

(注) 当日に乗り継ぐものとし、途中下車はしないものとする。また、乗車券、特急券は旅行開始前に一括して購入するものとする。

〈行程〉



〈資料〉

区 間	普通車指定席利用時の 通常期の指定席特急料金
姫路駅～岡山駅（さくら）	2,190円
岡山駅～博多駅（みずほ）	5,220円
博多駅～鹿児島中央駅（みずほ）	4,810円
岡山駅～鹿児島中央駅（みずほ）	9,520円
岡山駅～鹿児島中央駅（さくら）	9,220円
姫路駅～鹿児島中央駅（さくら）	9,540円

ア. $9,540円 + 300円 = 9,840円$

イ. $2,190円 + 9,520円 - 300円 = 11,410円$

ウ. $2,190円 + 5,220円 + 4,810円 - 300円 = 11,920円$

エ. $2,190円 + 9,520円 + 300円 = 12,010円$

〈以 上〉